



信州青木村ふるさと景観100選

雪晴れの塔

AOKI 青木村 議会だより

第72号
平成31年2月1日発行



発行／青木村議会
編集／議会報編集委員会
印刷／(株)アオヤギ印刷

青木村議会へアクセス

E-mail: gikai@vill.aoki.nagano.jp



青木村消防出初式

主な 記事

青木村議会だより
第72号

平成30年 第四回定例会	2～3
平成31年 第一回臨時会	4
一般質問	5～11
議会の動き	12～13
住民の声・議会日誌	14



青木村成人式

平成三十年

第四回定例会

平成三十年第四回定例会が、去る十二月十二日に招集され十九日までの会期で行われました。議案は条例の改正五件、寄附採納、債権の放棄、補正予算四件、請願一件、陳情一件、追加議案として補正予算一件で、慎重審議の結果、請願については閉会中の継続審査として社会文教委員会へ付託され、陳情については採択となり、他の案件については原案のとおり可決されました。

一般質問では、七人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ (要旨)

今年は、全国的に自然災害の多い年でありました。六月に発生した大阪府北部地震、西日本を中心とした七月の豪雨災害、九月に発生した北海道胆振東部地震、ならびに、相次いで上陸した台風など、各地で甚大な被害が発生しました。犠牲になられました方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

おかげさまで当村は大きな災害はありませんでしたが、八月の降雹によるリンゴやソバの被害、落雷による五島慶太翁

生家の焼失がありました。

また、今年の夏は災害レベルの大変な猛暑が続き、全国では熱中症の疑いによる救急搬送人員が過去最多となりました。小・中学校の全教室へのエアコン整備の必要性が高まり、前回九月定例議会では早急な整備へのご意見を伺いました。おかげさまで国の補助もいただき、今議会で補正予算を計上させていただくことができました。

「国道一四三号青木峠新トンネル」についてですが、五月二十二日に長野県からルート帯が発表されました。八月九日

には地元の入田沢区で住民説明会が開催され、十月から坑口の測量が開始されるなど、事業化へ向け着実に進捗しております。

また教育委員会関係では、平成三十年度予算で青木中学校に生徒用のタブレットを三十六台配置しました。秋の文化祭では、各学年がコンピュータを駆使したCMを作るなど、ICT教育の充実が図られました。

上田薬剤師会が、内閣府認定事業として採択を受けた「電子版健康ポイント事業」のプレ実証実験を青木村で行うことになりました。来年一月から三月にかけて、約三十名の村民の方に健康づくりを実践していただき、成果と課題等を整理したうえで、来年度以降、上小地域全域に拡大していく計画です。次に村の予算編成にあたっての基本方針について申し上げます。

国全体では、超少子・高齢化による人口減少や経済の見通しなど全体が不透明な中ではあります。村では平成三十一年度は第五次長期振興計画後期基本計画の三年目となり、「日本一住みたい村づくり」計画の実現に全力で取り組んでいます。

本年度は道の駅のリニューアル工事、市之沢浄水場・水道管工事などの大型事業が一区切りとなりましたが、引き続き村の財政力が県下の町村の中で六割程度の実力しかないことの認識の下、村が真に担うべき事業を「集中と選択」をし、限られた財源を有効かつ合理的に活用し、より質の高い行政サービスが提供できる村政の実現を目指します。創意と工夫で最大の効果が得られるよう、住民の皆さんの参画をいただきながら、職員の英知を結集して、元気で豊かな村づくり、日本一住みたい村づくりに取り組んでまいります。

国の動きに敏感に対応できる体制を敷き、この中で村の活性化や課題解決に積極的に取り組んでまいります。あわせて国・県等からの財源確保が確実な事業を優先させてまいります。

いずれにいたしましても、青木村はもとより厳しい財政状況の中、村民の皆さんが将来に夢をもてる先々を見通した施策を、スピード感をもって、年々増える社会保障への対応を図りながら、住民の皆さんの声を良く反映して、将来を見据えた予算編成をしてまいります。

議案

議案第一号

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

青木中学校の部活動指導員に報酬を支払うため、一部を改正するものです。

議案第二号

一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

人事院勧告及び長野県人事委員会において示された勧告に基づき、一部を改正するもので、国、県が実施する給与制度の見直しを踏まえ、民間の給与水準との均衡を維持しつつ実施するものです。

議案第三号

青木村個人情報保護条例の一部を改正する条例について

個人情報保護法等改正法及び行政機関個人情報保護法等改正法が施行されたことに伴い、個人情報報の定義を明確化(個人識別符号、要配慮個人情報)するため、一部を改正するものです。

議案第四号

青木村介護保険条例の一部を改正する条例について

介護保険法等の改正に伴い、公費を投入して低所得者の保険料を軽減するため、一部を改正するものです。

議案第五号

寄附採納について

次の方から寄附の申し出があり、ありがたく採納させていただくことになりました。

一、大字村松一七二番地の二

岩下 勇雄氏

百万円

青木村奨学基金として

一、大字村松一〇八二番地

元 青木村清流会 会計

沓掛 貞人氏

十八万百一十円

青木村奨学基金として

一、上田市大字上丸子

七八一番地三

森泉 徹雄氏

十万円

青木村奨学基金として

一、大字田沢三七三七番地

岡崎 宏嗣氏

十万円

一般寄附金として

一、大字田沢三七三七番地

岡崎 華那子氏

十万円

一般寄附金として

一、大字沓掛四二八番地三

沓掛 都子氏

小森 邦夫作

彫刻「腰かけた婦」

他一点

青木村郷土美術館他

備品として

一、上田市中中央二丁目一六番

二六号

米津 福祐氏

油彩「誕生(歓喜)」

(二五〇号) 他四点

青木村郷土美術館

備品として

議案第六号

青木村奨学基金条例の一部を改正する条例について

積立原資名に岩下 勇雄

氏を追加するものです。

議案第七号

債権の放棄について

債務者の破産手続きが終了し、村が立替え払いした

危険家屋解体費立替金の回

収できない額が確定したことから、これを放棄するものです。

議案第八号

平成三十年度青木村一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ七千八百八十万八千円を追加し総額を二十八億七千六百二十七万九千円とするものです。歳入は、国庫補助金一千四百五十八万三千円、前年度繰越金三千五百十二万五千円、村債二千九百十萬円で、歳出では小・中学校へ空調設備(エアコン)を整備するための設計監理委託料百八十四万四千円、同工事請負費七千七百四十万四千円です。

議案第九号

平成三十年度青木村国民健康保険特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ九十六万一千円を追加し、総額を五億一千八百八十一万九千円とするもので、歳入は保険給付費交付金(保険者努力支援分)で、歳出は特定健康診査等事業費などです。

議案第十号

平成三十年度青木村簡易水道特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ八百四十万一千円を追加し、総額を一億八千九百七十二万七千円とするもので、歳入は一般会計繰入金で、歳出は人事院勧告等に伴う人件費と維持管理費の修繕料です。

議案第十一号

平成三十年度青木村特定環境保全公営下水道事業特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ四十五万二千円を追加し、総額を二億七千七百三十三万一千円とするもので、歳入は前年度繰越金で、歳入は人事院勧告等に伴う人件費と公営下水道管理費の修繕料です。

請願・陳情

十二月定例会に提出された請願、陳情は次のとおりです。

請願第一号

長野県の子ども・障がい者等の医療費窓口完全無料化を求める請願について

動議が出され賛成多数に

より、閉会中の継続審査とし、社会文教委員会へ付託することに決定しました。

陳情第一号

安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める陳情について

全員賛成により採択されました。

追加議案**議案第十二号**

平成三十年度青木村一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ四千七百七十一万七千円を追加し総額を二十九億一千七百九十九万六千円とするものです。歳入の主なもの、県補助金五百十二万四千円、寄附金百四十八万八千円、前年度繰越金三千六百二十万二千円などで、歳出では人事異動や人事院勧告等に伴う人件費の増減と、ため池ハザードマップ作成のための調査設計委託料百二十万八千円、松林健全化推進・松くい虫防除対策事業等一千二百九十六万五千円などが主なものです。

平成三十一年

第一回臨時会

平成三十一年第一回臨時会が一月九日に招集され、慎重審議の結果、原案のとおり可決されました。

議案

議案第一号

平成三十年度ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金事業青木村立青木小・中学校空調設備設置工事の請負契約について

- 一、契約の目的 平成三十年度ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金事業青木村立青木小・中学校空調設備設置工事
- 二、契約の方法 指名競争入札
- 三、契約金額 六千八百五十五万八千四百円
- 四、契約の相手方 上田市諏訪形五番地一 株式会社 水工技建 代表取締役 高橋 裕

賛成討論

山本 悟 議員

気象庁が昨年夏を命の危険がある暑さ、「災害」と認識していると表明した。真夏の猛暑日に、小・中学生が快適な環境の中で学校生活を送るには必要不可欠な設備と考える。今後、エアコンはじめ機材、技術者の手当が心配される中、早期の設置計画・提案等、適切な事業執行になると認め、賛成討論とする。

追加議案

議案第二号

村長の専決事項の指定について

平成三十年度ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金事業青木村立青木小・中学校空調設備設置工事請負契約の変更請負契約に関する事



青木中学校



青木小学校

議会と語る会開催のお知らせ

議会報告会・住民懇談会

日頃、議会活動にご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。この度、村民の皆様の日頃の議会の活動状況を知っていただくため、議会報告会を開催いたします。議員が村民の皆様へ直接、報告・説明し、議会活動や村政に対するご意見やご提言などをうかがい、議会審議への活用や今後の議会活動に生かしてまいります。どなたでも参加できます。お誘い合わせのうえ、お気軽にお出かけください。

開催内容

- 議会活動報告について
- 国道143号青木峠新トンネル開通に向けた最近の取り組み状況について
- 青木村議会及び地方議会のあり方について

■ 開催スケジュール

開催日時	会 場	対象地区
2月23日(土) 午後7時～9時	青木村文化会館 2階 講堂	全地区 (全住民)



第四回 青木村議会定例会

一般質問



堀内 富治 議員

一、成年後見制度と利用状況について
二、村の施設の利用と維持管理について



成年後見制度と日常生活自立支援事業

一、成年後見人制度と利用状況について

(問) 成年後見制度は、認知症、高齢者、知的・精神的障害のある方の暮らしをサポートする制度だが。

村長答弁

この制度の背景は、少子高齢化が進行し、親の面倒が見られないことにある。財産管理もあり、需要は今後増えていくと予想している。

(問) 現状、上田市社会福祉協議会に委託し、二市一町一村ですめているが、事件は解決しているのか。

村長答弁

関係町村により内容は異なる。青木村は単独では対応できないが、丁寧に対応している。

(問) 現在の利用状況はどうか。

村長答弁

家族間の希薄な面があり、連絡調整時間がかかる。青木村の件数は少ないが、行政は前向きに取り組んでいる。

住民福祉課長答弁

事件の解決のため、弁護士・司法書士・社会福祉士等、資格の有する専門職にも協力を仰ぎたい。

幅広く業務をすすめるため、市(村)民後見人になれる人の研修会を実施している。

相談しやすい体制づくりに努めている。

二、村の施設の利用と維持管理について

(問) 村の施設は、村民の生活を考え、累積でかなりの数と規模になる。青木村全体の資産の件数と金額はどの位になるか。

村長答弁

細かな金額については、今持ち合せていないが、こんなに良くやっていただいた先輩に感謝したい。今後しっかりと管理、維持をしていきたい。

総務企画課長答弁

国の指導により、平成二十七年よりデータベース化し、統一基準で作成し、資産管理をしている。

(問) 村の施設・建造物が増えており、大型の施設もある。有効な利活用をどのようにすすめるのか、また、耐震化はどうか。

村長答弁

青木村は恵まれている。他地区では、スポーツ・集会施設は、利用する順番取りに苦慮している。

村の施設は充分間に合っていると认为すが、現有するものを有効利用していきたい。

(問) 主な建物の耐震化は完了している。図書館・美術館、環境は素晴らしいが、来客数、村民の利用が少ない。営業努力とPRの工夫はないか。

教育長答弁

いろいろな催しの企画、イベント等の工夫、楽しめる図書館、美術館のPRをすすめてたい。

(問) 指定管理者による管理運営について。

村長答弁

現在の指定管理者と管理運営状況については、特別問題はなく、当初の計画どおり順調に事業が進行している。指定管理場所と指定管理者は、次のとおりである。

指定管理場所	指定管理者
道の駅あおき	(株) 道の駅あおき
ふるさと公園あおき	(株) 道の駅あおき
リフレッシュパークあおき	信州上小森林組合
くつろぎの湯	青木村社会福祉協議会
青木村老人福祉センター	青木村社会福祉協議会
青木村高齢者生活福祉センター	社会福祉法人大樹会
田沢温泉ふれあいセンター	中村区長
沓掛温泉共同浴場	沓掛区長



松澤 正登 議員

一、青木村の国道、県道の改良促進について

二、青木村図書館の運営について



青木村図書館



歩道整備が予定される国道143号殿戸バス停付近

一、青木村内の国道、県道の改良促進について

(問) 国道一四三号の青木峠付近の未改良区間十一キロメートルのバイパスの整備計画についてトンネルを含めたルート帯の発表がなされたが、その後今日に至るまでどんな調査や作業が行われたか。

村長答弁

県の五カ年計画の中で、事業着手の位置づけがなされて今に至っている。現在、ルートに従って、地質調査、ボーリング調査、土質調査等を行って、予備設計等ルートの一本を決める作業をしている。

(問) トンネル坑口に当たる地元説明会、また、用地問題等の進捗状況は。

村長答弁

村全体の説明会を開催。そして、入田沢区で八月全体説明会を行い、坑口の付近を秋には調査に入ることを説明した。今後どの土地にどれだけのかかるか道路設計をしてから地元説明会や、個々の用地交渉に入っていく予定だ。

(問) トンネルから発生する掘削残土の量、そして、残土置き場の利用箇所の選定状況は。

村長答弁

掘削断面は、国道のため広

い断面で、八十平方メートル程度になる。土砂の搬出については、どこに捨てるか場所の選定をしていくが、適当な容積があること、水関係や環境の問題の解決、その後の土地利用等を総合的に勘案して決めていきたい。

(問) 平成三十一年度以降はどんな調査、作業が予定されるのか。

村長答弁

一番は、坑口等の環境調査と言われている。残土処理地の候補を道路にするか、平面的な土地利用ができるかなどを考え合わせた場所の選定をしていく。取り付け道路を含めた詳細な測量、道路関係、橋梁等々の詳細な設計、トンネルや橋梁の取り付け部分のボーリング調査が、今後の作業と承知している。

(問) 国道一四三号の歩道と安全対策の計画は。

村長答弁

県では、防災安全交付金の事業として、整備、工事、測量、用地買収を事業認可をとって浦野橋から殿戸バス停まで進めている。さらに青木の街中でも、一部歩道のない部分について数年前から県にお願いをしている。

(問) 県道丸子信州新線改良促進について。

進について。

建設農林課長答弁

村としても、従来に増して強く要望している。今後も議会と村民の意見を反映させながら、一生懸命進めていく。

(問) 県道下奈良本豊科線及び田沢中挟線の整備について。

村長答弁

県道としての位置づけは重いものがある。また、活用する量もあるので、一つ一つ支障のないようにするために、県にお願いしていく。

二、青木村の図書館の運営について

(問) 取り組んでいる事業と特徴は。

教育長答弁

最も大きな特徴は、「上田地域図書館情報ネットワーク」に参加していること。保育園が隣にあるために園児が週一回本を借りに来ること。

(問) 利用者を増やす取り組みは。

教育長答弁

乳幼児サービスとして、ブックスターという乳幼児のためのサービスを大切にしている。

(問) 新しい事業の取り組みの考えは。

教育長答弁

広報を使っていく。高齢者へのサービスについても考えている。



居鶴 貞美 議員

一、平成三十二年度事業予算について



役場庁舎・保健センター

一、平成三十一年度事業予算について

(問) 村の予算編成の基本的な考え方はどうか。

村長答弁

第五次長期振興計画後期基本計画の三年目となる。村が担う事業を集中と選択により行う。厳しい財政状況の中、住民の皆さんの声を反映して、将来を見据えた予算編成をしていく。

(問) 「ふるさと納税」が総務省の指示により、「返礼品割合三割」、「地場商店限定」であるが、見込み返礼品についての考えは。

村長答弁

本来の主旨に戻りつつある。一品一品について細かいチェックをうけている。年度末で一千万円を見込んでいる。五島慶太翁の顕彰等により愚直に行なっていく。

(問) 教育委員会

①事業推進策と予算案は。

②重すぎるランドセル問題で「置き勉」の通達が出たが、対応はどうか。

教育長答弁

①あおきっ子教育五ヶ条により、向かうべき方向が定まっており、大事にしている。ICT機器の耐用年数に

伴う関係、今年度のクーラー設置を進めている。

②村においては「置き勉」を実施している。低学年のランドセルは二・六キログラムであり、全国平均より軽い状況である。人体に対する影響もないと考えているが、配慮していく。

(問) 住民福祉課

①事業推進策と予算案は。

②生活困窮者対策はどうか。

住民福祉課長答弁

①男女共同参画計画の更新時期にあたり、対応をしていく。

②貸付が九件、相談が六件の十五件で、五年前の五倍である。村・県の社会福祉協議会の貸付制度で対応したい。

(問) 商工観光移住課

①事業推進策と予算案は。

②移住お試し住宅の活用は。

商工観光移住課長答弁

①発足して三年目で、事業を評価し決めていく。

②古民家一軒、新築一軒がある。新築の利用が高い。古民家では、地域起こし協力隊のイベントで活用した。幅広い活用により移住を進めていく。

(問) 建設農林課

①事業推進策と予算案は。

②水道法改正に伴う民営化等に対する考えは。

建設農林課長答弁

①国道一四三号の整備促進、六次産業化の推進、タチアカネの普及に力を入れる。

②人口減少、施設の老朽化等から、民間の力をとの声もあるが、当面、住民福祉の面からも運営は村が行っていく。

(問) 総務企画課

①事業推進策と予算案は。

②消費増税に対する対応は。

総務企画課長答弁

①平成二十七年度からの総合戦略が五年目となる。二次の作成にあたって人口ビジョンの見直し等も行う。

②歳出の面では、工事発注、物品購入等前倒しを周知していく。引上げに伴う規整備も行う。

(問) 税務会計課

①事業推進と予算案は。

②税の延滞、滞納整理策は。

会計管理者答弁

①固定資産税において、三十二年まで、家屋現地外観調査を行っていく。

②滞納整理を折にふれ行う。口座振替日の変更等により、減少傾向にある。更に、相談、交渉により減少に努めている。

国民健康保険と協会けんぽの保険料比較

〔夫婦（40～64歳）2人、子ども2人の4人家族〕
 ＜総収入400万円 所得金額233万円の場合＞

国民健康保険

所得割額 293,580円
 均等割額 140,200円
 平等割額 37,500円
合計 471,280円

協会けんぽ

230,112円

（2020年度以降の青木村国民健康保険税による坂井試算）

青木村国民健康保険税の改定率



国民健康保険税を協会けんぽ並みに

インフルエンザ予防接種助成対象者拡大のための必要経費試算

	未就学児 (1～6歳未満)	小学生 (6～13歳未満)	中学生 (13～15歳)	合 計
罹患率 2017/18年	32% (園児)	39%	32%	35%
村負担分の医療費予想額	2万円	17万円	5万円	24万円
想定予防接種者数 (7割)	85人	164人	69人	309人
予防接種必要予算	76万円	146万円	31万円	253万円
村負担分の医療費予想減額	1万円	14万円	4万円	19万円
村の差引必要経費	75万円	132万円	27万円	234万円

(坂井試算)

インフルエンザ予防接種の助成を子どもたちにも

坂井 弘 議員

一、高すぎる国民健康保険税の見直しについて

二、風疹ならびにインフルエンザ予防接種費用の補助について

三、就学前の障がい児教育について

一、高すぎる国民健康保険税の見直しについて

（問）健康寿命延伸プロジェクトの審議状況・到達点は。

住民福祉課長答弁

会議を九月に開催した。年明けに健康に関するアンケートを配布し計画に反映させる。

（問）来年度開始する事業は。

住民福祉課長答弁

今のところ考えていない。五歳刻みの特定健診無料化による効果は。

住民福祉課長答弁

効果があつたとは言えない。保険者努力支援制度のリーフレットを配布し、村民に健診をPRしてはどうか。

住民福祉課長答弁

検討してみたい。

（問）高すぎる健康保険税を協会けんぽ並みにという全国知事会の主張をどう捉えるか。

村長答弁

一市町村で立ち向かうには壁が大きい。全国町村会を通じてお願いをしている。

（問）均等割を軽減している自治体がある。青木村でもできないか。

村長答弁

法律で徴収が定められている。国でも、今後検討すべき

事項として確認されている。

二、風疹ならびにインフルエンザ予防接種費用の補助について

（問）風疹抗体検査・予防接種の助成状況は。

住民福祉課長答弁

予防接種の助成を上田市などが行っている。抗体検査は、無料で保健所で行っている。

（問）保健所で検査できることをもっと広報すべきだ。インフルエンザ予防対策として「あいいうべ体操」を奨励してはどうか。インフルエンザ予防接種の助成対象を子どもにまで拡大した場合の予算は。

住民福祉課長答弁

七割の方が接種されると見込むと、二百六十万円強でいい。

（問）インフルエンザ予防接種の有効率は高く、医療費抑制にも繋がる。対象年齢を子どもにまで拡大してほしい。風疹予防接種も、国に上乗せする助成ができないか。

村長答弁

インフルエンザについては長和でもやっているの、来年度予算編成のなかで議論していきたい。風疹については、自身の抗体の有無を確認するPRをしていきたい。

三、就学前の障がい児教育について

（問）インクルーシブ教育の基本的理念は。

教育長答弁

障害のある者とい者が共に学ぶ仕組みであり、合理的配慮が提供される必要がある。

（問）行政の役割は何か。

教育長答弁

早期支援体制の整備、切れ目のない支援、専門性の確保、基礎的環境整備、合理的配慮が必要だ。

（問）村として取り組んできたことは。

教育長答弁

各機関の連携、インクルーシブ教育の実践、一人ひとりへの対応の充実。

（問）障害の重い子への支援は。

教育長答弁

療育施設への通所が必要になる。

（問）療育施設への通所は、週一か、月二のペースが実情だ。青木保育園に入園できるようにはならないか。

村長答弁

医療的ケアの必要な子どもも村で育てるといのは理想だが、今の村の状況では難しい。一人ひとりに必要な支援の方法を考えていきたい。



山本 悟議員

- 一、今こそ道の駅に入浴、RVP、他施設併設の検討を
- 二、小・中学校の夏休みのあり方について
- 三、小・中学校のエアコン設置最新情報は



道の駅あおき

一、今こそ道の駅に入浴、RVP、他施設併設の検討を

道の駅の沿革は、道路利用者の「休憩」「情報発信」「地域連携」の目的のもと、平成三年の実験から始まり平成五年には全国で百三箇所、三十年四月には千四百四十五駅になった。

青木村の道の駅は、平成十七年に認可登録された。

平成二十七年には全国で三十五駅が選定された「重点道の駅」のひとつとして、体験学習の村の体験交流拠点、特産品の開発、ドクターヘリによる救命緊急患者搬送拠点、大規模災害での自衛隊等の参集可能な防災拠点として認められた。さらに直売所、レストラン、市庭、情報休憩施設、駐車場等が整備され、三十年四月二十八日阿部知事、太田昭宏前国交大臣を迎えて、竣工式典が開催された。

今回の一連の道の駅関連・ふるさと公園・青木峠の新トンネルの具現化等について、村長・職員に対して敬意と感謝を表明する。

道の駅も日々進化しており、道路利用者のニーズとハートをつかんだ駅が活性化し、結果として勝組になると

思う。青木の道の駅も立派に

完成したが、更にハード面で欲しいものとして入浴施設、RVP、コンビニ、コインランドリー、洗車場、更に広い駐車場等がある。

(問) これらの諸施設について検討、研究的なもの設置を。

村長答弁

グラントオープンして間もない。今できた施設をいかに有効に活用するか、農産物を満載にするか、イベントをどうするか等、他に考えることが多く余裕がない。

(問) 全国道の駅連絡会、大学との連携、全国スタンプラリー制覇表彰等、横の繋がりを、他の団体等との協働等は。

村長答弁

全国道の駅連絡会はもとより、国交省が主宰する会議等に参加している。

二、小・中学校の夏休みのあり方について

本年七月二十三日埼玉県熊谷市で最高気温が四十一・一度を示し記録を更新した。気象庁は「命の危険がある暑さ」「災害」と認識している」と表明。熱中症予防を呼びかけ

た。

全国で二千三百人余りが救急搬送され、四人の方が亡くなった。

(問) 県教委から(夏休みのあり方について)何らかの通知等あったか。小中学校の様子・児童生徒教職員からの要望は。

教育長答弁

児童生徒はぐったりしていた。医療機関にかかった子はいない。教職員や児童生徒、県教委からも特段通知等はない。

三、小・中学校のエアコン設置最新情報は

私が一般質問の通告をしたのは十一月二十九日。

開会日は十二月十二日で、議案第八号平成三十年度青木村一般会計補正予算(第三号)の中で小・中学校へのエアコン設置の予算案が提案され、その中で同僚議員も私も質疑をした。

原案通り小学校十二教室十八台、中学校九教室十五台、総額七千八百八十八万八千円の予算が全員賛成にて原案どおり可決成立したので、教育長との問答は割愛する。



岡谷市にある長野県男女共同参画センター(あいとびあ)



金井 とも子 議員

一、青木村の男女共同参画について

一、青木村の男女共同参画について

(問) 村民への青木村男女共同参画基本計画の周知方法は、

住民福祉課長答弁

再来年に向け第四次計画を策定する。次年度には、村民の方にアンケート等をする中で併せて周知を図る。

(問) 村役場職員の女性の指導的地位(管理職)への採用目標はいかほどか。また、その達成率は。

村長答弁

三分の一が目標。男女に関わらず適材適所が理想。現在管理職七人中一名、係長以上十六人中四名が女性。全体的に、また、年代によって女性が少ないことを理解していただきたい。

(問) 現在の女性管理職の割合について受け止め方は。

村長答弁

女性職員は、四十五歳以上の職員二十三人中五人、五十歳以上は十六人中四人のみ。労働力人口減の中、意欲ある女性職員の活躍のための環境整備は使命であると思う。労働力の確保、経済の活性化の観点から有用。性別に寄らない公正な評価、成長過程で候補の女性に責

任ある立場の経験を図る必要がある。管理職登用は公正な目で行いたい。

(問) 職員の女性の割合は。近年の採用人数は。女性課長誕生の将来への期待はあるか。

総務企画課長答弁

正規職員五十六名、うち、男性三十一名女性二十五名。率は四十四・六％。採用は、五年間で十四名採用、うち、女性が九名で六十四・三％。二、三十代では六十三・六％が女性。構成比から将来は女性課長の誕生の可能性あり。

(問) 村男性職員の育児休暇の取得状況は。女性職員の働く環境は。

総務企画課長答弁

男性の育児制度はあるが、取得実績は無い。女性の産前産後休暇、育児休業三年、育児後の復帰、その間の代替職員の対応もできている。

(問) 審議会委員等への女性の登用の割合は。

総務企画課長答弁

民生児童委員は十七名中十一名で六十四・七％、保健指導委員は四十二名、全て女性。子ども子育て会議委員は、十八名中十名、五十六％。結婚相談員は、四名中二名で五十％。その他二十％

に満たないものもある。トータルでは四百七十九名中百二十二名が女性で、二十五・五％

(問) 男女共同参画社会推進のための教育的取り組みは。

教育長答弁

印象では、男だから女だからという意識は感じていない。中学校の生徒会長は女子。次も女子の予定とのことだ。小学校の運動会の応援団長も女子が立派に務めた。

人としての在り方の人権意識を高める学習をしている。一人一人を大切にしている。教育の充実を図る。

(問) 村内各区での女性役員の状況は。区の女性役員を増やすための村での方策は。

総務企画課長答弁

把握しているところでは、衛生委員で一名のみ。各区で、事情が許せば女性を登用してほしい。村でも「女性の活躍の場を」とPRしたい。

村長答弁

郷土食の先生もおられるので、お願いし伝承していくことをやっていきたい。



宮入 隆通 議員

- 一、子育て支援について
- 二、竹チップ粉碎機の活用について
- 三、地域ブランディングについて



竹チップ粉碎機が活用されることを期待する
(画像は共立 HP より)



可燃ごみ袋を支給し、紙おむつごみ無料化を実施している自治体もある

一、子育て支援について

(問) 子育て支援として乳幼児の紙おむつごみの無料化をしてほしいが。

村長答弁

周辺の実施しているところを参考に検討してみたい。

(問) 青木村の保育園の待機児童の状況は。

保育園長答弁

待機児童はいない。

(問) やまほいく制度とは。

保育園長答弁

自然体験を取り入れ、健康的に成長する力をつけることを目的に創設された長野県の認定制度。

(問) 教育者はやまほいくに向けた研修など知識や経験を積んでいるか。

保育園長答弁

研修会・講演会・視察等参加している。

(問) 安全性に配慮されているか。

保育園長答弁

マニュアル化されており、職員の配置含めて配慮している。

(問) 認定されたことによる新たな取り組みは。

保育園長答弁

新たな取り組みはないが、情報収集を行いたい。

(問) 学校給食のこの一年間の検討結果は。

教育長答弁

ハムやかまぼこは無添加。化学調味料を使わず、鰹・昆布から出汁をとっている。

(問) トランス脂肪酸のない給食にしてほしいが。

教育長答弁

トランス脂肪酸が含まれるマーガリンは使っていない。

二、竹チップ粉碎機の活用について

(問) 機種、能力、機種選定経緯は。

建設農林課長答弁

機種は共立CM一八一D、処理能力は時間当たり五立方メートル。小型は機動力がないため中型の機種を選定した。

(問) 貸出条件・運搬方法は。

建設農林課長答弁

個人での貸出しはしない。危険性があるため、講習会を受けたグループに対して貸出しを行う。各グループにて運搬をお願いする。

(問) 竹チップはどのように使う予定か。

建設農林課長答弁

家庭の生ごみと混ぜて堆肥化してごみの減量化、土壌改良資材とすることを主に考える。

ている。

(問) パウダー化・ペレット化の予定は。

建設農林課長答弁

粉粒体のパウダー化は可能。ペレット化の計画は考えていない。

(問) 竹をペレット化してペレットストーブを普及させたいかどうか。

建設農林課長答弁

コスト面などの課題があり、様々な事例を研究していきたい。

(問) ペレットストーブ設置の際の助成制度は。

建設農林課長答弁

交付要件により定住促進応援補助金があるので活用してほしい。

三、地域ブランディングについて

(問) 現在の地域活性化策は。

商工観光移住課長答弁

長期振興計画後期五カ年計画を軸にして地域活性化を図る。

(問) 多くの方が関わることできて盛り上がるような地域ブランディングを検討したかどうか。

村長答弁

キッチンカーを活用するなどして青木村に多くの観光客を呼び込みたい。

議会の動き



**国道一四三号青木峠
新トンネル建設促進
議員連盟協議会役員
会開催**

**青木村及び上田市共
有財産組合議会視察
研修**

平成三十年十一月二十二日、県庁において、行政機関で構成している「国道一四三号整備促進期成同盟会」の要望活動として松本市・上田市・安曇野市・筑北村・青木村の沿線市村で「青木峠新トンネルの早期建設」を長野県へ要望しました。

併せて、沿線の三市二村の全議員で構成する建設促進議員連盟の役員会を開催し、活動の取組み状況や現況、今後の活動等について話し合い、各構成市村の議会に報告されました。

現況については、県では事業化に向けての調査、ルート帯の発表、地元説明会、トンネルの坑口となる現地調査が行われております。今後については、早期に事業申請を国に提出していただき、工事着手、完成を願い、各市村の行政と連携し要望活動をしてまいります。

(沓掛計三)

平成三十年十一月六日～七日

に共有財産組合議会議員、常設委員、事務局員にて研修視察を実施しました。視察先は富士宮市の静岡県富士山世界遺産センターと富士市の株式会社マルダィでした。

静岡県富士山世界遺産センターは、平成二十五年六月にユネスコの世界文化遺産に登録された「富士山信仰の対象と芸術の源泉」を伝えるための拠点施設で、展示棟の木格子で覆われた逆円錐形のフォルムが特徴です。この木格子には富士ヒノキが使われています。

次に製材会社の株式会社マルダイにて、プレカット工場を視察しました。大型の倉庫を備え、自動で各注文に応じたプレカットをしている工程を見学しました。また、国産材では地域の製材業と工務店が一体化した事業体をつくり、森林認証を受けた認証材を普及させ、地球環境に配慮した家造りを提案しているとのことでした。(宮入隆通)

総務建設産業委員会 視察研修報告

一、リモコンによる草刈り機

平成三十年八月二十九日、議会議員、清水マネージャー、建設農林課職員が参加。視察場所は、東御市北御牧、八重原の信州ファーム(有)荻原進一さん宅。視察のポイント、青木村の中山間地における「リモコンによる草刈り機について」。

青木村の水田地域は、急傾斜地が多く石もあり、畦畔の草刈りは大変である。耕作者も年々高齢化し、年代も変わり、リモコンによる草刈り機に期待している。

荻原さんは、田畑で八十ヘクタールの耕作をし、作業の合理化を図るため、リモコン操作による草刈り機で作業の省力化をしている。畦畔の傾斜度は五十度まで良いとのこと。運転をしてみると、非常に運転がしやすい。機種はイタリア製で、全重量二五〇キログラム、刈り幅百十二センチメートルで、軽トラックで移動ができる。価格三百五十万円位。

現状、日本でも三社位で開発

をし実用化しており価格も安い。諏訪地区でも、長野県と共同で開発をすすめている。

課題として、機械の性能を熟知した専属のオペレーターの確保と、運営主体をどうするか。作業の難しさを感じるが、農業振興をすすめるべく前向きに機械利用の努力をしたい。



リモコン式自走草刈機による畦畔の除草作業 (総建視察研修)

二、議会活性化に取り組む、下伊那郡喬木村と喬木村議会及び林業センターの視察研修

議員全員、議会担当職員参加で実施した。平成三十年十月二十八日、議会の活性化に積極的にとり組んでいる喬木村と喬木村議会へお伺いした。喬木村は、ふるさと納税にも前向きに取り組んでいる。多い年には、八億一千万円の実績があり、企業版ふるさと納税に積極的に取り組んでいる。お返し品目も四十品目もあるが、国の規制があり心配している。



喬木村議会の視察研修

現在村の人口は四月一日現在六千四百六十三人、高齢化率三十四・二％、議員報酬月額十四万三千元、合併しない特徴のある村だ。議会改革は、全国的にも感心が高い。現在議員十二名(内女性一名)、平均年齢六十四才である。十委員会を組織し、議会運営をしている。取り組み始めた事情について、注目されていることと、ポイントは

一、議員のなり手不足と、幅広い人材の確保ができない。
一、住民の期待する議会がない。

一、議会は休日、夜間とし、二時間以内とする。

一、議員の兼業をすすめる。
一、議員報酬は高くないが様子を見たい。

一、村職員、関係者への配慮と理解が重要だ。

等で課題が多く、様子を見ながらすすめていきたいとのことだ。

青木村議会も、研究会を設置し、具体的に検討をしている。また、塩尻市の長野県林業総合センターにて、松くい虫のメカニズムについて研修を行った。(委員長 堀内富治)

第六十二回町村議会議長全国大会

平成三十年十一月二十一日第六十二回町村議会議長全国大会が「地方創生の実現を目指して」を目的とし、来賓に内閣総理大臣安倍晋三氏ほか多くの国会議員を招き、東京都のNHKホールで開催されました。

大会にあたって、「町村は、国民生活を支えるため、食料供給、水源涵養、国土保全に努め、伝統文化を守り、自然を生かした地場産業を創出し、個性ある街づくりを進めてきた。しかし、我が国の景気は、穏やかな回復基調が続いているものの、少子高齢化や過疎化など人口減少社会が到来し、多くの町村は厳しい経済になやまれ、地域の活性化は減退している。今こそ、国と地方が一体となって、人口減少の克服と地方創生を実現するためには、町村の自治能力を高め、都市と農漁村が『共生』しうる社会

を強力に進めていくことが重要である。」との宣言文が採択されました。要望事項については、東日本大震災及び熊本地震からの復旧・復興と大規模災害対策の確立、地方創生の更なる推進、町村財政の強化、少子化対策の推進及び社会福祉対策の強化、消防体制の強化など十六項目と、議会の機能強化及び職員のなり手確保に関する重点要望を決議し国に要望いたしました。

(香掛計三)

長野県地方自治政策課題研修会

第十四回長野県地方自治政策課題研修会が、十一月十六日に県庁講堂にて、県会議員・各市町村議員多数出席のもと開催されました。

阿部知事と県会議長挨拶の後、財務省大臣官房政策立案総括審議官の岡本直之氏より「SDGs(共存)による地域活性化に向けた地方公共団体のアプローチ」と題した講演が行われました。講演内容は、地方創生における自治体の取り組みとして、国の五カ年計画のうち今年度は四年目にあたる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、地

方への新しい人の流れを作る取り組みや、今後の人口減少社会に対応した「まち」への再生、地方創生の推進力を高める担い手の充実、「スーパージェイ」構想でありました。

続いて、国土交通省道路局ITS推進室長の安部勝也氏による「中山間地における自動運転サービス実現に向けた取り組み」と題した講演で、自動運転システムの開発と実用化に向けた取り組み状況や、中山間地での高齢者の外出(通院・買い物)時対応に活用できる自動運転サービス運行システム開発等のお話をいただきました。(宮下壽章)

上田地域広域連合議会定例会

平成三十年第二回定例会が十月二十三日から二十五日の会期で開催されました。

小林議長の開会宣言に続き、土屋広域連合長の挨拶があり、今年の夏の「災害」とも言える猛暑による熱中症の救急搬送について、高齢者人口がピークを迎えるにあたり直面する少子高齢化の重要課題について、また、地域医療対策については、二次救急医療体制の強化や信州上田

医療センターの医師の確保、病院群輪番制病院との後方支援病院としての信州上田医療センターへの搬送について。次に、要介護認定及び障害者介護給付費について。消防関係では、火災件数が九月現在五十七件であること、救急救助業務に関すること、長野県消防防災航空隊が、九月一日から一部の救助活動を再開したことなどが述べられました。特に最重要課題である資源循環型施設建設については、地元地区の皆さんと折り合いがつかない中ではあるが、市長懇談会や説明会を実施し、早期実現に向けて取り組んでいる旨の報告等がありました。

今回の定例議会では、決算案四件、補正案一件、条例案一件等の議案が提出され、一般質問には、宮下省二議員と渡辺正博議員の二名が登壇しました。

平成二十九年度決算額は、一般会計・特別会計の合計で歳入合計四十七億三千九百九十九万四千五百三十三円、歳出合計四十五億三千五百三十三万四千五百三十三円、歳入超過は二億四千四百六十六万四千五百三十三円となりました。提出されました各案件につきましては、総務常任委員会と保健福祉常任委員会にて審議し、本会議にて報告され、全案件共に可決されました。(宮下壽章)

青木村議会のあり方研究会

全国的に議員のなり手不足が問題化となっています。今後青木村でも人口減少に伴い、議員のなり手不足となる可能性が有ることから、研究会を平成三十年七月に発足しました。若者や女性を含めた幅広い方々に議員になることを目指していただけて調査・研究していきます。

平成三十年十二月末までに三回開催され、研究会における検討項目が次の通りに決まりました。

- ・議会議務局の専任化
- ・議員のなり手不足の解消
- ・議員報酬と政務活動費
- ・議員提案
- ・議員間討議
- ・議会委員会のあり方

今後は県内町村議会での状況を踏まえて約一年かけて検討していきます。

この研究会が発足されたことにより、現在の議員の活動も活発となり、住民から信頼される議員となれるよう精進していきます。

(宮入隆通)

青木村議会誌

11月

- 1日 / 商工懇談会(正副議長、総務建設産業委員)
- 1日～2日 / 全国町村監査委員表彰式・研修会(監査委員)
- 2日～4日 / 青木村総合文化祭
- 4日 / クロスロードあおき祭(正副議長)
- 5日 / 五団体親睦マレットゴルフ大会
- 6日～7日 / 財産組合議会視察(財産組合議会議員)
- 8日 / 筑北村議会との懇談会(青木村)
- 9日 / 福祉ふれあいのつどい
- 9日 / 小学校バイキング給食(正副議長、社会文教委員)
- 16日 / 長野県地方自治政策課題研修会
- 17日～18日 / 産業祭・新蕎麦まつり
- 21日 / 町村議会議長全国大会(議長)
- 22日 / 国道143号整備促進期成同盟会県要望活動(議長)
- 23日 / 子檀神社中社秋季例大祭(議長)
- 25日 / 静岡県長泉町産業祭
- 25日 / 青木村商工会工業部会情報交換会及び忘年会(議長)
- 28日 / 総務建設産業委員会視察研修(喬木村、塩尻市)
(総務建設産業委員、社会文教委員)
- 30日 / 例月監査(監査委員)

12月

- 1日 / 子育てフォーラム青木2018(正副議長、社会文教委員)
- 6日 / 議会運営委員会(議会運営委員)
- 12日～19日 / 12月定例会
- 12日 / 議会全員協議会
- 18日 / 青木村議会のあり方研究会(第3回)
- 18日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 27日 / 例月監査(監査委員)

平成31年

1月

- 2日 / 成人式(正副議長、社会文教委員)
- 4日 / 仕事始めの式(議長)
- 9日 / 第1回臨時議会
- 9日 / 議会全員協議会
- 9日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 12日 / 豊受皇大神宮例大祭並びに交通安全祈願祭(中挾)(議長)
- 13日 / 消防出初式(正副議長、総務建設産業委員)
- 14日 / 豊受大神宮例大祭おたや祭(長和町)(議長)
- 21日 / 全員協議会
- 21日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 24日 / 上田地域市町村議会議員研修会
- 31日 / 例月監査(監査委員)

2月 今後の予定

- 3日 / 青木村大節分祭
- 5日 / 社会文教委員会視察研修(群馬県高崎市、佐久穂町)
- 7日 / 上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 20日 / 上田地域広域連合議会定例会(正副議長)
- 22日 / 上田地域広域連合議会定例会(正副議長)
- 22日 / 県町村議会議長会定期総会・情報交換会(議長)
- 23日 / 議会報告会
- 日 / 例月監査(監査委員)

住民の声



青木村の中心街 地域拠点を目指す

株式会社道の駅あおき 代表取締役 林 寛夫

道の駅あおきの仕事に関わって
から、十三年が経過しました。

直売所の歩み

平成十八年からスタートしました。販売額七千三百万円。平成二十二年マツタケの大豊作もあって、初めて一億を超える。平成二十六年四月味処こまゆみ、観光事業を含めて村から指定管理を受ける。青木村特産のタチアカネ(蕎麦)石臼曳きの手打ちそばで売り出す。平成二十七年国交省から重点道の駅に、同年十一月ふるさと公園あおき完成、直売所運営組合が中心となり、二十八年四月一日株式会社道の駅あおきが発足する。同年北村村長の政策の大きな柱として道の駅あおきのリニューアル計画が始まる。平成二十九年四月二十八日直売所ランドオープン同十一月一日ワイン等酒販類の販売始まる。又、味処こまゆみランドオープン。二十九年度末で(直売所+味処こまゆみ)初めて二億を超える。加工施設・休憩施設等含め三十年四月リニューアルオープンした。マツタケの豊作もあり三十年度末見込み(三十一一年三月末三億に達する可能性が出てきました。

笑顔があふれる道の駅

ふるさと公園あおきでこどもや家族が遊ぶ。直売所で買物を楽しみ、味処こまゆみで食事をたのしむ、笑顔が溢れ心のやすらぎ道の駅を目指したい。今後期待される青木村新トンネル開通は安曇野・松本方面からの観光客等大きな可能性を含んでいます。そのために誰もか寄ってみたい魅力あふれる道の駅にしたい。

農業衰退、集落機能低下の中でみんなが集まれる祭の再現や村の魅力を伝える観光案内等、地域と連携し地域拠点としての役割を果たしていきます。多くの皆様のご協力をお願いします。

編集後記

総務建設産業委員会での視察研修で青木村議会に行ったときのことである。青木村のある議員が、「一期目のときには何もなかったよ」と笑っていた。続けて「けれども二期目の今は、やることがたくさんあって大変だけれども、とても満足している」と、自信をもった真剣な目で話した。

議会改革で全国の町村議会の中でも、注目の集まる青木村議会。議会改革の資料を見て驚いた。資料の多さにも驚きながら、内容の濃さだ。また、皆で率直な意見を自由に言い合っている。膨大な時間と手間がかかったことだろう。

青木村議会では議員のあり方研究会が発足した。多くの地方の町村議会では、議員のなり手不足が問題化してきている。制度的な改革ももちろん必要だが、青木村で会った議員のように、改革する前に、改革しようとする強い気持ちをもつことが必要ではないかと感じた。

議会報編集委員会

委員長 金井とも子
副委員長 松澤 正登
委員 宮入 隆通
坂井 弘
宮下 壽章
小林 和雄



この印刷物は、植物性インキおよび再生紙を使用しています。